

海の神、風の神、森の神、大地の神への祈り

民族のアイデンティティー、共生への光を求めて
アイヌの精神と魂の原点を探るドキュメント映像詩

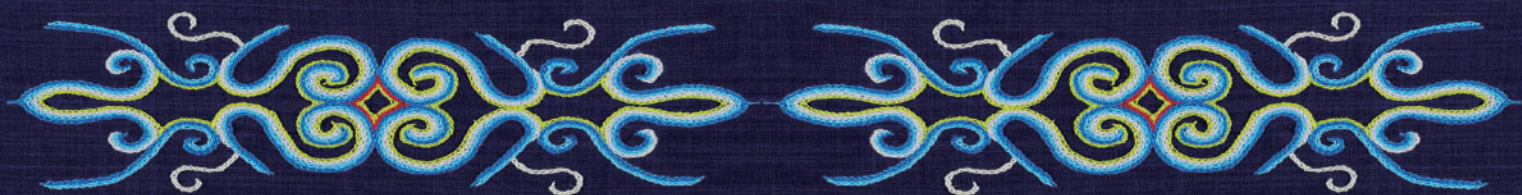


大地よ

アイヌとして生きる

アイヌとして生き、古布絵や詩の表現へ
アイヌの精神を問い続ける宇梶静江の世界

金 大偉 監督作品



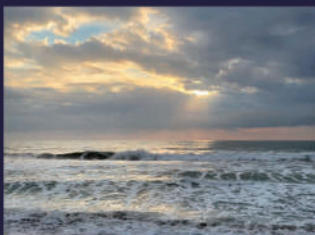
自然の循環、大地の循環 ... 人間が生きる根源の姿を求めて

出演：宇梶静江

ナレーション：宇梶剛士

プロデューサー：藤原良雄

監督 音楽 撮影 構成：金 大偉



構成協力：能澤壽彦 編集：吉野直子 アイヌ伝統歌：宇佐照代 他 写真：山本桃子

制作進行：藤原洋亮、山崎優子 制作協力：TAII Project、TP.Studio、Academy Apollo 他

2023年度作品 / カラー / 105分 / STEREO / ハイビジョン / 16 : 9 / 日本

【予告篇】



企画・製作：藤原書店

人間らしい生き方とは何か？ 自然に生きるアイヌ文化とは何か？

今こそ響く、アイヌの知恵が蘇る



宇梶静江というアイヌの女性が、大自然そのものの隠喩に他ならないことを物語っている。彼女は巨大な自然、つまりマクロコスモスを前に、ただ一人、ミクロコスモスとして向かい合っているのである。

四方田犬彦 (映画誌・比較文学)



語りというよりも、祈りである。つつましく、力ぶよく、万物に向けられた祈り。万物に宿るカムイに向けたカムイノミ(神への祈り)。自我を放擲した、脱中心化された、すべてを包み込む祈り。ことばがこれほどに簡潔で深い包容力を湛えた声として表出されることはいまや稀なことである。

今福龍太 (人類学者・批評家)



私たちはまだ、この自然の中に抱かれた溢れる喜びを、取り戻すことができる！宇梶さんの美しい詩と共に、私たち自身がその力を思い出さなければいけない、と思います。今を生きる、これからを生きるすべての人に「大地よ」を観て、そしてもう一度大自然の豊かさを感じてほしいです。

加藤登紀子 (歌手)

90歳を前に、東京から故郷北海道へ戻った静江さん。何故？その目的は？人々が守り伝えて来たものとは？

鈴木敏夫 (スタジオジブリ プロデューサー)

母なる海の波の映像は宇梶静江さんやアイヌの人たちの長い人生と重なり引き込まれる。ラストシーンの雪のなかを歩く姿から、アイヌが受けてきた差別などの苦悩、孤独、そして乗り越える力強さや確たる誇りが滲み出ている。深い意味と価値が詰まった作品である。

大石芳野 (写真家)



私はこの映画を通じて、変えられないもの、変わるはずがないことを、「自ら意思してなること」によって変えられるということを知った。現代風にアレンジされた伝統歌が力強かった。

町田 康 (作家・ミュージシャン)

大きくて偉大で掴みがたいもの、かつて知っていまは忘れてしまったもの、ひどく懐かしいもの、いつかどこかで確かに聞いたり出会ったりした大切なもの、そんなものたちが彼女の向こうから、直接話しかけてくるような気がする。

高橋源一郎 (作家)



その精神性には、今の世界を救う鍵が隠されている。その手引き書のような本作品から垣間見える、ひとりのアイヌ人女性のまなざし。そのまなざしが向かう先を想像している。

河瀬直美 (映画監督)

戦争のない世界を、本当につくれる。なぜならそれは、在ったし、在るのだから。今、世界に必要な叡智として、アイヌを知ろう。

赤坂真理 (作家)



人生の最晩年をアイヌとして全うし、この理不尽極まりない人間世界の衆愚を一身に背負って、大地の神の生贄にならんとする覚悟に満ちた、神々しいお姿を、その映像に刻んでいます。

佐々木 愛 (劇団文化座代表・俳優)

カムイはシベリア諸民族ではエジェ・主(ぬし)である。人間は自然界・カムイに生かされているのだ—この確たるアイヌの世界観こそが、今危機にある地球大地の救世になるのだというメッセージには大いに我が意を強くしました。

荻原真子 (民族学研究者)

2023.4/29(土・祝)より 連日10:00~

※5/13(土)以降は、変更になる可能性があります。劇場までお問合せ下さい。

《舞台挨拶》

4/29 宇梶静江 (主演) + 金大偉 (監督)

4/30 藤原良雄 (プロデューサー) + 金大偉 (監督)

その他の舞台挨拶は未定。詳細は劇場のHPにてご確認ください。

ポレポレ東中野

03 3371 0088

pole2.co.jp

